



病床数
868 床
↓
819 床

手術室数
14 室
↓
20 室

外来診察室数
78 室
↓
98 室

Special
Topics

令和の初日に新しく 生まれ変わった 虎の門病院を見学

9月25日、元厚生労働大臣のしおごきやすひさ塩崎恭久衆議院議員をはじめ、ふじ いもとゆき藤井基之参議院議員、
たかがい えみ こ高階恵美子参議院議員、なが お たかし長尾 敬衆議院議員、た ばたひろあき田畑裕明衆議院議員、じ み自見はなこ参議院議員、
き むらじろう木村次郎衆議院議員、ほん だ あき こ本田顕子参議院議員の自民党厚生労働関係有志議員が
今年5月1日に新しく生まれ変わった虎の門病院(本院)を見学しました。





特別個室Aにて。写真右から、高階恵美子参議院議員、塩崎恭久衆議院議員、大内尉義院長、藤井基之参議院議員、田畑裕明衆議院議員、長尾 敬衆議院議員、自見はなこ参議院議員、本田顕子参議院議員、木村次郎衆議院議員、中山 浩副院長・事務部長

見学会は、中山浩副院長・事務部長による虎の門病院の概要説明からスタート。

「虎の門病院は、国家公務員共済組合連合会の中核的医療機関として昭和33年（1958）に設立。開院当初から診療科を臓器別に細分化するなど、高度で総合的な医療を展開してきました。また、病棟医（レジデント）を24時間病棟に常駐させるなど、当時としては画期的な体制を確立。さらに日本で初めての冠動脈撮影や腹膜透析に成功するなど、日本の医学・医療を常にリードしてきました」。

その後、行われた意見交換会では、まず大内尉義院長が「令和時代の幕開けに新しく生まれ変わった虎の門病院は、高度先

進医療を担う病院として進化を続けています。その60余年の歴史や伝統から、敷居が高いと思われがちですが、どなたでも気軽にご来院いただける開かれた病院です」とあいさつ。

次に、塩崎恭久衆議院議員が、見学会の開催に謝意を述べた上で、「今回、新たに導入した医療機器で、特筆すべきものは」と尋ねると、大内院長は「手術支援用ロボットの『ダヴィンチ』です。また、従来の放射線治療法より高い効果が期待でき、副作用も少ないとされる高精度放射線治療装置『ラディザクト』も導入しました。さらにCTやMRI等は高性能の機器にバージョンアップするなど、時代のニーズに柔軟かつ迅速に対応し、全体の

個室数
33室



216室

延床面積
約6万㎡



約8万6000㎡



【 虎の門病院 】

昭和33年（1958）に開院した本院（診療科数38）と、その8年後に開院した分院（同22）、さらに健康管理センター・画像診断センター等を擁し、海外医師研修事業にも力を入れる日本を代表する大規模病院。虎ノ門二丁目地区再開発計画の一環として本院の移転計画が3年前から始まり、令和の初日に新病院が誕生した。



大内尉義院長



中山 浩副院長・事務部長



塩崎恭久衆議院議員



藤井基之参議院議員



高階恵美子参議院議員



意見
交換会



長尾 敬衆議院議員



田畑裕明衆議院議員



自見はなこ参議院議員



木村次郎衆議院議員



本田顕子参議院議員

8割ほどの機器が新しくなっています」と答えました。

続いて、藤井基之参議院議員が診療単価や病床利用率について、虎の門病院にかつて勤務していた高階恵美子参議院議員と自見はなこ参議院議員が食堂や休憩室、託児所などの職場環境について質問するなど、活発な意見交換が行われました。

意見交換後、大内院長、中山副院長・事務部長の案内で地上19階の最上階にある特別個室へ。「自宅にいるような快適性と上質感を兼ね備えています。大型テレビやデスク&チェアなどの付帯設備が充実している他、専用のコンシェルジュが生活面をサポートします」とチーフナースのなかがわさちの中川幸子さん。塩崎衆議院議員がセキュリティ面やプライバシーへの配慮、地震対策について尋ねると、大内院長は「新病院では、安心・安全」をさらに向上させました。9階より上の病棟は、専用のセキュリティカードで入室を徹底管理。特別個室はプライバシーに配慮し、部屋用のカードキーを設けてい

特別個室

塩崎衆議院議員が外国人の利用状況について尋ねると、「最近では外国人の入院患者が増えてきています。日本と異なる習慣や文化をお持ちの方が安心して入院ができるように語学の習得、そして食事にも気を配っています」とチーフナースの中川幸子さん



特別個室Aは57㎡のスペースがあり、ゆったり。バスタブ、トイレ、キッチン付で、50インチテレビ、執務作業用デスク&チェア、幅2mのソファ、リクライニングチェアなどの付帯設備も充実。「使い勝手が良さそうで、快適に過ごせますね」と自見参議院議員(左から2人目)



特別個室はA～Dタイプの4種類。一般の個室とは一線を画すハイグレードな空間で、充実した医療サービスを行う。看護師が使う手袋やマスクなども収納され、「特別個室にふさわしい、きめ細やかな配慮で一つ一つ設計されているのに驚きました」と高階参議院議員(右)



ます。
不測の事態でもご安心して入院生活が送れるよう、建物は制震・免震構造、そして100時間対応できる非常用自家発電機も備えています」。

その後、患者の多様なニーズに因應するためインターネット環境を整備し、個室を約6・5倍に増やした一般病棟を見学。そして、総合案内のある2階で、受付から精算までの流れ、新サービスの「メール呼出」について説明を受けました。

中山副院長・事務部長は「メール呼出は、診

総合案内



「外来受付は2階になります。虎の門病院の1日の平均外来患者数は2374人です」と中山副院長・事業部長(左)

察時間が近づく」と携帯電話やスマートフォンにメールが届く便利なサービスです。診察までの待ち時間を有効に活用することができ、患者さんにも大変好評です」。

最後に、1階の玄関、講堂、シミュレーション・ラボセンター、救急外来（ER）を見学。虎の門病院では災害時に、玄関前広場をトリアージ※のスペースとして活用。そして、1階のフロアの壁をすべて取り払い、講堂で手術ができるようにするなど、災害拠点病院と同じ役割が果たせるように工夫されています。令和7年（2025）には、旧病院の跡地に建設されるオフィスビル（38階建）の屋上

に防災ヘリポートを整備し、重症者等を受け入れていきます。令和の初日に新たな歴史の1ページを開いた虎の門病院は、国際水準の医療サービスを提供するとともに、都内最高レベルの災害時診療・収容拠点としての機能を備えていました。その現場で働く医師や看護師の生の声も聞き、見学会は終了しました。

※災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を決めること



心臓マッサージの実技訓練をする藤井参議院議員（右から2人目）。「シミュレーション・ラボセンター」では、シミュレーター（模型人形）による多彩な研修を行っている

シミュレーション・ラボセンター



救急外来の診察は、救急科常勤医師2人と研修医3～4人で行う



救急外来 (ER)



救急外来をご案内いただいた救急科の西田昌道（にしだまさみち）部長。「救急外来の診察では、重大な病気が隠れていないか、見逃してはいないか、に注意を払っています。検査は24時間365日、いかなる時にもレントゲン、CT、MRI検査、血液検査をすることができます」



救急科の西田昌道部長



見学会に参加して

高階恵美子 参議院議員

新しく生まれ変わった病院を、この目で見たいとずっと思っていたので、見学できて光栄です。特に印象深かったのは、講堂の壁に掛けられていた沖中重雄第2代院長のお言葉です。虎の門病院は、医療に貢献する人材を育てる、いわば“虎の穴”。全国から技術を磨こうとする

向上心の高い医師や看護師が集まってきます。この先生のお言葉が、みんなの心に浸透しているのだと感慨深いものがありました。

書かれた医学は過去の医学である
目前に悩む患者の中に
明日の医学の教科書の中身がある

田畑裕明 衆議院議員

正面玄関一帯が災害医療対応としてトリアージ区域に転用できる設計で、重症者等の受入対応を強化していました。また、救急受入体制もスペースを考慮しながら機能的に設定していて、高度救急を担う気概が感じられました。患者満足度を高めるため個室を大幅に増やすなど、患者本位の姿勢が感じられた一方、勤務する人にも働きやすい環境づくりや教育機能の充実を図り、より良い医療を実施していました。引き続き、総合病院としての高みを目指してほしいと思います。

自見はなこ 参議院議員

とても愛着のある病院で、分院でも外来患者を診ていました。虎の門病院は、医師や看護師はもちろん、医療従事者がとにかく素晴らしい。ブランド力があるので優秀な人材が集まりやすく、しかも皆さんやさしいんです。また、院内に虎の子保育園があるため、子育て中の働く人や患者さんの安心感が全然違います。新しくなって、たくさんの人からもっともっと愛される病院になることを期待しています。

本田顕子 参議院議員

平成29年(2017)の熊本地震を経験し、どんな時にも切れ目のない医療を提供することの大切さを痛感しています。災害時には、玄関前広場に災害 TENT を設置し、正面玄関一帯をトリアージ区域とすることで重症・中症者約600人、軽症者約1500人に対応できるように試算されていました。その他、建物にはセキュリティ、プライバシーの配慮がなされ、地震対策も十分に施されていました。こうした備えが多くの病院でも進んでいくようにと願っています。